

国有林における獣害対策等現地検討会を行いました

～埼玉森林管理事務所のニホンジカ被害防止対策の取組について～

令和3年11月30日
林野庁
関東森林管理局
埼玉森林管理事務所

近年のニホンジカ個体数の増加により、秩父地域の森林においてもニホンジカによる食害は甚大となっています。国有林でも、伐採後植栽をした苗木が被害を受ける等影響が出ており、植栽木をシカの食害から守るため、防護柵や単木保護資材などの対策を実施しています。

この度、埼玉森林管理事務所では、令和3年11月15日に秩父市荒川日野字中川国有林において、ニホンジカによる食害防止対策を実施するにあたり、国有林でのこれまで取り組んできた急峻な地形や落石等地域の特性に応じた効果的な手法を紹介し、地域の森林・林業関係者と意見交換を行いました。

当日は、埼玉県秩父農林振興センター3名、埼玉県農林公社1名、秩父市役所2名、横瀬町役場2名、ときがわ町役場2名、東京大学秩父演習林2名、林業事業体3名、埼玉森林管理事務所7名の計22名が参加しました。（写真1）



写真1：主催者挨拶（伊藤所長）

現地検討会会場は、伐採跡地にヒノキを植栽し、防護柵を設置した箇所ですが、これまで度重なる落石等により防護柵が破壊され、ニホンジカの進入により植栽木の食害が拡大した経緯があります。これを踏まえて、今年度、落石等に強いとされる防護柵を既存の防護柵内にパッチディフェンス方式（保護したい区域を複数に分けて小さな面積で柵を設置する方法）で設置しました。（図1）現地検討会には、メーカーの担当者にも参加いただき製品についての説明を受け意見交換しました。（写真2）

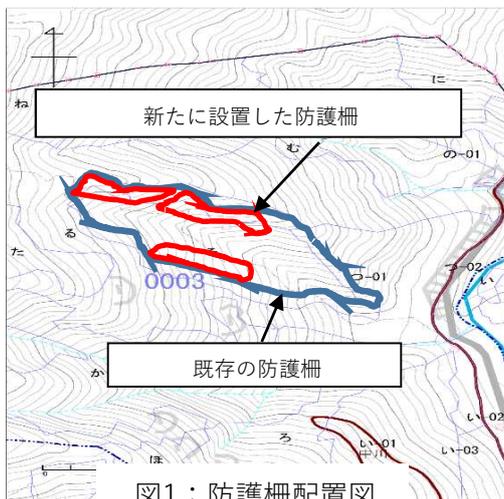


図1：防護柵配置図



写真2：防護柵写真。

また、単木保護資材を設置した植栽木については、積雪等の影響や令和1年10月の台風により、単木保護資材が倒れるなどの被害が出て、防護柵設置と併せて資材を撤去した経緯があり、資材撤去後の植栽木の生育状況を見ていただきました。（写真3.4.5）



写真3：単木保護資材（撤去前）。



写真4：枝が巻き付いている植栽木。



写真5：幹が曲がっている植栽木。

意見交換については、参加者から次のような意見を頂きました。

- ・植栽木については、樹高に比べ幹が細すぎるため積雪や強風で倒れる心配がある。
- ・今後どのように成長するか観察が必要。

特に、参加者の関心が高かったものは、強度のあるネットについて、メーカー側への質問や相談が多くありました。

参加いただいた、市町の職員からも参考になったとの意見をいただき有意義なものとなりました。（写真：6）



写真6：素材の違うネットを比較し様々な意見・要望が出されました。

埼玉森林管理事務所では、今後も、林業の成長産業化に貢献するため、林業の低コスト化・省力化について情報発信してまいります。



お問合せ先

関東森林管理局 埼玉森林管理事務所 担当者 調整官 茂垣、森林技術指導官 高橋
〒368-0005 埼玉県秩父市大野原491-1

TEL：0494-23-1260 FAX：0494-23-1262